

【審判委員会】

1. 競技会参加に向けて

JVA 6人制ルールブック P93

20.1.1 「競技参加者は公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければならない」

本大会は、ファーストレフェリー以外を帯同審判員で行う。そのため、大会に参加するチームは 2026 年度「JVA 6人制ルールブック」、「6人制ルールの取り扱い」、「6人制実技マニュアル」を理解し、各都道府県協会などで開催されている審判講習会に参加しなければならない。



「6人制ルールブック」



「6人制取り扱い」



「6人制実技マニュアル」

2. コートワイピング

試合中のワイピング（フロアモッピング）については、コート上の複数選手が携帯したスモールタオルで速やかに行うこと。枝付きモップは、ウォームアップエリア後方に置き、レフェリーの判断で使用することを認める。

3. リベロプレーヤー

- ・ チームは 2 名までリベロを指名することができる。ただし、13 名以上の選手を登録している場合は必ず 2 名のリベロを置かなければならない。

4. ボールをプレーするときの反則

(1) キャッチ

ボールをつかむ、投げる、ボールの方向を変える、持ち上げる。このような動作はキャッチの反則となることがある。

ボールは、クリアにヒットされなければならない。ボールをヒット後、接触している部分から離れないと判断された場合はキャッチの反則となる。

(2) ダブルコンタクト

1 人の選手が連続してボールを 2 回ヒットすること、またはボールが 1 人の選手の身体のさまざまな部分に連続して触れること。

- ボールをつかむ、投げる、ボールの方向を変える、持ち上げる。このようなプレーはキャッチの反則となることがある。ファーストレフェリーは、ボールが接触している状況を的確に判定する。特にオーバーハンドパスにおいて、手の中に止まるケースや長くとどまるようなプレーは、キャッチの反則となる。
- チームの 2 回目のヒットが指を使ったオーバーハンドパスで行われ自チームの空間内にボールが飛んだ場合は、手の中で連続して接触してもダブルコンタクトの反則に

ならない。アタックヒットが完了（ボールがネットの垂直面を完全に通過するか、相手ブロックに接触）したときは、ダブルコンタクトの反則になる。

- オーバーハンドパスをしたボールが、そのプレーヤーの手から滑り身体の他の部位にあたった場合は、ダブルコンタクトの反則となる。
- チームの2回目のヒット後、アタックヒットが完了（ボールがネットの垂直面を完全に通過するか、相手ブロックに接触）したときにダブルコンタクトの反則が成立するため、それまでに別の反則が起きた場合、その反則が優先される。

5. 不当な要求

正規の試合中断の要求（タイムアウト・選手交代）に関して、遅延行為が適用された場合、同じチームによる試合中断の要求は、次のラリーが完了するまで認められない。（けがや病気による選手交代を除いて）

6. サービスの許可

- ① コート上に5人だけ、または7人の選手がいるときには6人になるよう、サービスのホイッスルの前に促す。もし、ファーストレフェリーがそのことに気づかずにサービスのホイッスルをした場合、およびラリーが始まったり、完了した場合、ファーストレフェリーはそのことに気づいたら直ちに罰則なしにラリーをやり直さなければならない。
- ② ポジション4にリベロがいる場合は、ファーストレフェリーはチームが正規の選手にリプレイスメントするのをサービス許可のタイミングまで待つ。それでもリプレイスメントが行われない場合は、セカンドレフェリーを通してアシスタントスコアラーに確認後、リプレイスメントさせ、その後遅延行為に対する罰則を与える。もし、ラリーが始まった場合、ポジショナルフォルトとして処置をする。
- ③ サービス許可のタイミングで、その他の不法なリベロリプレイスメントが行われており、ファーストレフェリーが分かっている場合も、上記②と同様の処置を行う。

7. スクリーン

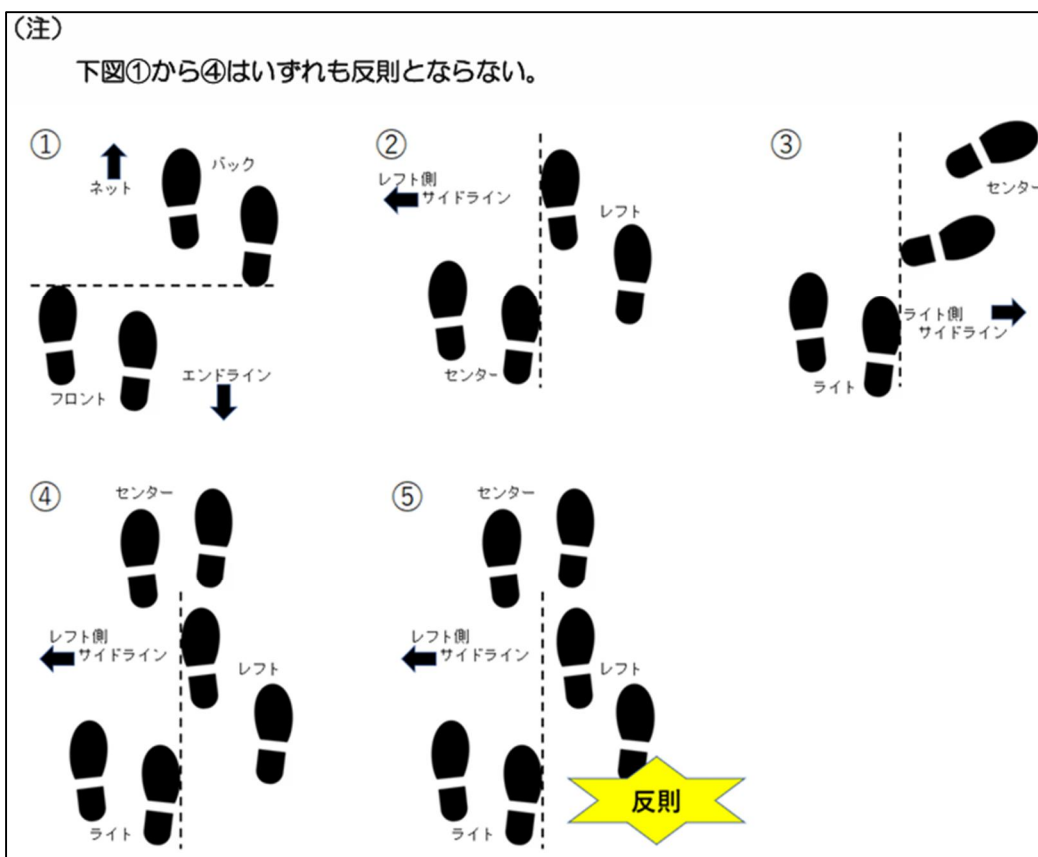
- サービングチームの選手は、サービスボールがネットを越えるまで、手を頭より上に上げてはならない。チームが意図してスクリーンを形成している場合や、プレーヤーが手を頭より上に上げている場合（頭を保護するために、頭の後ろに手を上げることは許される）、スクリーンの反則になることがある。
- 上記のようなケースをサービス許可前に気づいた場合は注意をする。また、サービス許可後に生じた場合はラリー終了後に注意をする。

8. ポジション

サービスヒットの瞬間、サーバーを除き、両チームはそれぞれのコート内に位置していなければならない。

レシービングチームの選手はサービスヒット時、ローテーション順に位置していなければならない。サービングチームの選手はサービスヒット時、どの位置にいてもよい。

1. レシービングチームのポジションの反則が成立するのは、サーバーがトスをした瞬間である。トスをする瞬間までに、コート内に位置していなかったり、ポジションが完全に入れ替わったりしたケースは反則となる。セカンドレフェリーは、サーバーとレシービングチームのポジションを視野に入れるために、支柱から少し離れて判定をする。サーバーがトスをする瞬間までに、完全に入れ替わり反則となるケースがあるため、レフェリーはポジションを常に把握しなくてはならない。
2. レシービングチームにポジションの反則が起きたときは、サービスヒットの瞬間にホイッスルする。
3. サーバーが反則（不適切なサービスの実行やローテーション順の間違いなど）をした場合、相手チームにポジションの反則があったとしてもサービスの反則となる。
4. サービングチームはローテーション順に位置していなくても反則にはならないが、コート内に位置していないと反則となる。また、サービングチームはフリーポジションではないので、レフェリーはフロント・バックなどのポジションの確認は必要である。
5. サービスヒットの瞬間に、コート面に接している足がない場合、最後にコート面に接触していた部分を基準とする。



9. セット間

セット間の時間は前のセットが終了後、次のセットが開始されるまで3分間である。したがって、前のセットの終了後2分30秒でホイッスルをし、スターティングメンバーをコートに入れ、ラインアップを確認する。そのためセカンドレフェリーは、積極的に次のセットのラインアップシートの提出を監督に要求する。

10. 少人数で登録したチームが負傷により不完全なチームになることの救済措置

正規の選手が負傷した時、リベロ以外に交代する選手がいない場合は、リベロを正規の選手として指名して試合を続行することができる。

- ① 登録7名の内、リベロ1名の場合リベロを正規の選手に指名することができる。
- ② 登録8名の内、リベロ2名の場合リベロ2名の内、どちらかを正規の選手に指名することができる。

ユニフォームについては、正規の選手に指名されたリベロが、可能な限り正規の選手と同じユニフォームを着用すること。それが不可能な場合は、ビブスを着用すること。

11. 審判割当について

審判役員集合の遅れが試合遅延の大きな理由となっています。

※審判割り当て「呼び出し0」を大会の目標にしています。

①審判担当の試合について

- ・ チームからセカンドレフェリー1名、スコアラー1名（アシスタントスコアラー1名）、ラインジャッジ4名、点示員2名の合計8名（9名）をチームから出すものとする。
※アシスタントスコアラーは任意とする。
- ・ JVA公認審判員有資格者であっても、セカンドレフェリーを選手が担当することは認めない。
- ・ セカンドレフェリーについては、原則、JVA公認審判員有資格者でなければならない。
- ・ セカンドレフェリーはJVA公認レフェリーウェアとワッペンを着用すること。
- ・ スコアラーはチームスタッフで行うこと。
- ・ 29回大会において、スコアラーについて、**スタッフが不在（監督1名のチーム構成）の場合のみ**、選手でも認めるが、2026年度6人制ルールブックP142～P153「スコアシート記入法」に則り正確に記入できるように準備すること。

②大会2日目の審判について役員は、原則として、前試合の敗者チームとする。

- ・ 敗者チームに審判有資格者が不在で、勝者チームがセカンドレフェリーを行うことが出来る環境であれば、それを妨げるものではない。
- ・ 決勝トーナメント準決勝と決勝については、審判委員会がファーストレフェリーとセカンドレフェリーを担当する。スコアラー、（アシスタントスコアラー）、ラインジャッジ、点示員はチームで担当すること。
- ・ ラインジャッジフラッグについて、審判委員会でも用意するが、「共用」を避ける観点からチームで持参することが望ましい。

③大会2日目 第1試合の審判割当に注意すること。

- ・ 大会当日に配布するプログラム【コート表2日目】p16～17を参照すること。
※当該コートの3試合目のチーム。
- ・ 原則として、前に表記されているチームがセカンドレフェリー、スコアラー、（アシスタントスコアラー）・点示員を担当し、後に表記されているチームをラインジャッジとする。**※11. ②に記載の通り、原則、審判有資格者で運営すること。**